

### 7～9月期の業況は改善傾向

#### 【特別調査】 - 「中小企業経営者と「人生100年時代」

#### 【調査要領】

調査時点：2018年9月上旬  
 調査対象：西兵庫信用金庫お取引先102社  
 調査方法：調査票を用いた面接による聞き取り調査  
 調査票回収：102社  
 調査対象地域：西播磨地域（宍粟市、相生市、赤穂市、たつの市、揖保郡、赤穂郡、佐用郡）

分析方法：D.I. (デフュージョン・インデックス) による分析  
 景気の方向感を判断するために使う指数。各質問項目で、「良い」と答えた割合から、「悪い」と答えた割合を引いて算出する。

〈例〉

	良い	普通	悪い	合計
回答数	10	5	5	20

(良い)50% - (悪い)25% = (D.I.)25

#### 回答企業の業種別内訳

業種	回答企業数
製造業	32
卸売業	11
小売業	17
サービス業	19
建設業	18
不動産業	5
総計	102

## 全業種総合

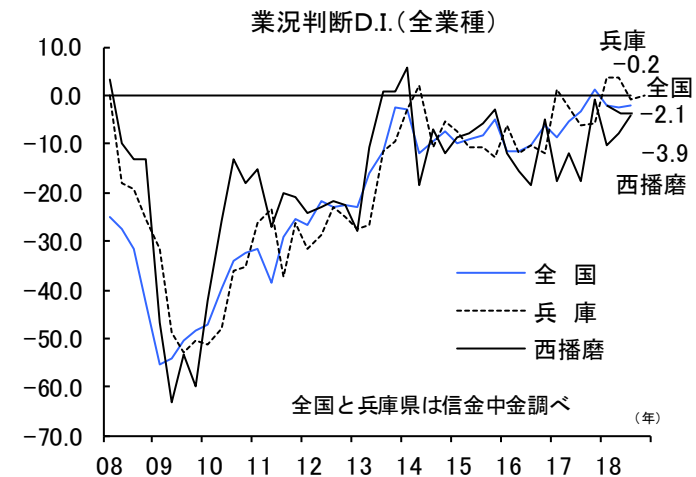
### ～景況感は改善傾向～

18年7～9月期（今期）の業況判断D.I.は△3.9と、前期比4.0ポイント改善した。前期に比べ業況が「良い」と回答した企業の割合が2.8ポイント増加し、「悪い」と回答した企業の割合が1.2ポイント減少したことにより、水面下ではあるが改善傾向を示した。

前期に比べ売上額が増加したこと、および販売価格の低下以上に仕入価格が低下し収益が改善したことが主な要因である。

前年同期比の売上額判断D.I.は5.9と前期比15.8ポイント増加し、同収益判断D.I.は4.9と前期比19.8ポイント増加した。

業種別の業況判断D.I.は、製造業・サービス業・建設業で改善し、卸売業は低下、小売業・不動産業は横ばいであった。

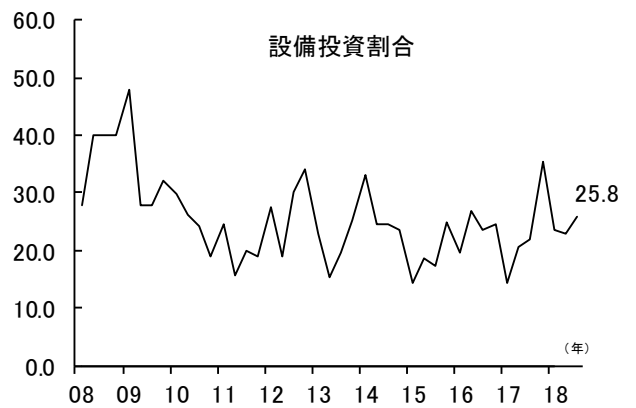
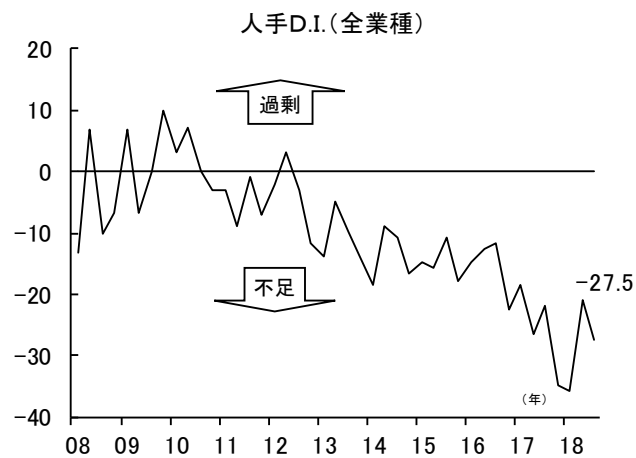
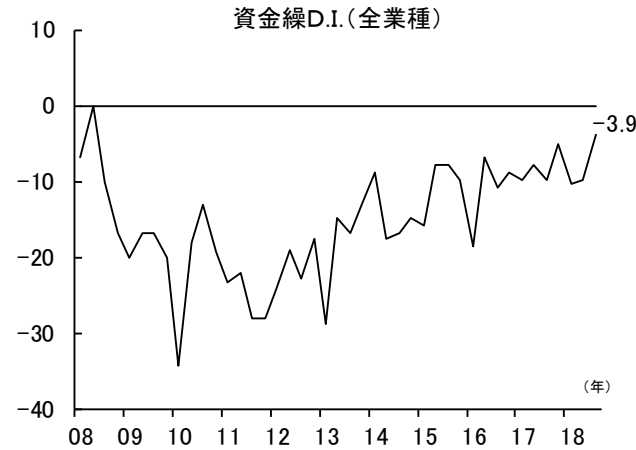


#### 【業種別天気図】 過去4四半期の業況判断D.I.を平均して判定

時期	2018年4～6月	2018年7～9月	2018年10～12月(見通し)
総合	☁	☁	☁
製造業	☁	☁	☁
卸売業	☂	☁	☂
小売業	☂	☂	☂
サービス業	☁	☁	☁
建設業	☁	☁	☁
不動産業	☁	☁	☁

快晴 晴れ 晴れ時々曇り 曇り 曇り 雨 大雨

← 好調 → 低調



### ～販売価格判断D.I.・仕入価格判断D.I.ともに低下～

販売価格判断D.I.は2.0と、前期比3.0ポイント低下した。また、仕入価格判断D.I.は、23.5と前期比6.2ポイント低下した。

### ～資金繰判断D.I.は改善～

資金繰判断D.I.は△3.9と、前期比6.0ポイント改善した。

業種別では、製造業が前期比18.7ポイント、卸売業が同18.2ポイント、サービス業が同5.2ポイントそれぞれ改善し、小売業が前期比5.9ポイント、建設業が同11.1ポイントそれぞれ低下し、不動産業は前期比横ばいとなった。

### ～人手過不足判断D.I.(過剰-不足)は、人手「不足」感が強まった～

雇用面では、人手過不足判断D.I.が△27.5（マイナスは人手「不足」超）と、マイナス幅が前期比6.7ポイント拡大し、人手不足感が強まった。

残業時間判断D.I.は1.0と、前期比4.0ポイント増加した。残業時間が「減少」したとする企業の割合が減る以上に、「増加」したとする企業の割合が増えている。

### ～設備投資実施企業割合は増加～

設備投資実施企業割合（不動産業を除く企業のうち設備投資を実施した企業の割合）は25.8%と、前期比2.9ポイント増加した。

### ～来期の景況感は今期実績比横ばいの見通し～

来期の予想業況判断D.I.は△3.9と、今期実績比横ばいの見通しとなっている。

業種別の予想業況判断D.I.は、製造業が今期実績比3.2ポイント、サービス業が同21.0ポイント、建設業が同11.2ポイントそれぞれ改善する見通しであり、卸売業が今期実績比18.2ポイント、小売業が同17.7ポイント、不動産業が同40.0ポイントそれぞれ低下する見通しである。

### ＜経営上の問題点＞

経営上の問題点としては、「人手不足」が43%、「売上の停滞・減少」が42%、「同業者間の競争の激化」が31%と多く、その他では、「利幅の縮小」が20%、「人件費の増加」が13%となっている。

### ＜当面の重点経営施策＞

当面の重点経営施策としては、「経費を節減する」が58%、「販路を広げる」が42%、「人材を確保する」が39%と多く、その他では「情報力を強化する」が11%、「教育訓練を強化する」「技術力を高める」が8%となっている。

#### 経営上の問題点

順位	全業種	割合
1位	人手不足	43%
2位	売上の停滞・減少	42%
3位	同業者間の競争の激化	31%
4位	利幅の縮小	20%
5位	人件費の増加	13%

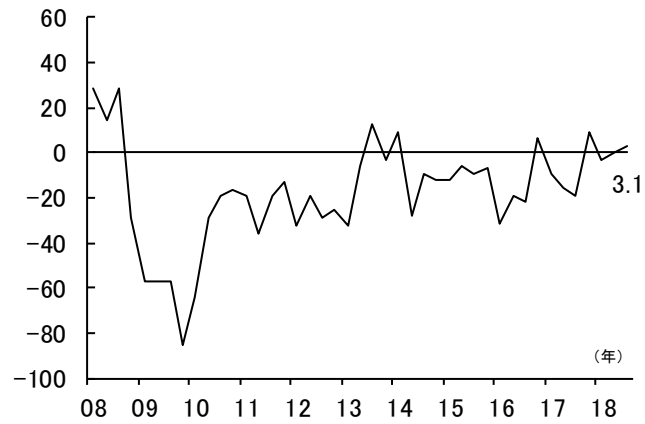
#### 当面の重点経営施策

順位	全業種	割合
1位	経費を節減する	58%
2位	販路を広げる	42%
3位	人材を確保する	39%
4位	情報力を強化する	11%
5位	教育訓練を強化する	8%
5位	技術力を高める	8%

※2009年12月期までは、信金中金が「全国中小企業景気動向調査」として実施している当金庫調査対象30先のデータであり、2010年1月以降は、新たに調査対象先を追加し西播磨地域に限定したデータとなっている。

## 製造業

業況判断D.I.(製造業)



### ～製造業の景況感は改善する～

今期の業況判断 D.I.は 3.1 と、前期比 3.1 ポイント改善した。

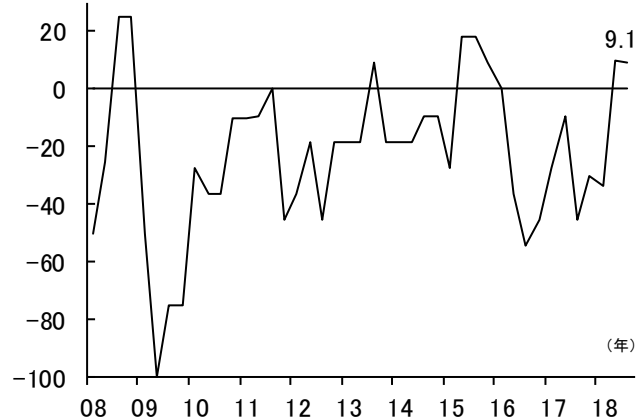
前年同期比売上額判断 D.I.は 9.4 と、前期比 9.4 ポイント改善し、同収益判断 D.I.は 3.1 と、前期比 15.6 ポイント改善した。

設備投資実施企業割合は 21.9%と、前期に比べて 3.1 ポイント低下した。資金繰り判断 D.I.は 3.1 と、前期比 18.7 ポイント改善した。人手過不足判断 D.I.は、 $\Delta 21.9$  (前期は $\Delta 12.5$ ) と、人手不足感は強まった。

来期の予想業況判断 D.I.は 6.3 と、今期実績比 3.2 ポイントの改善を見込んでいる。

## 卸売業

業況判断D.I.(卸売業)



### ～卸売業の景況感は低下する～

今期の業況判断 D.I.は 9.1 と、前期比 0.9 ポイントの低下となった。

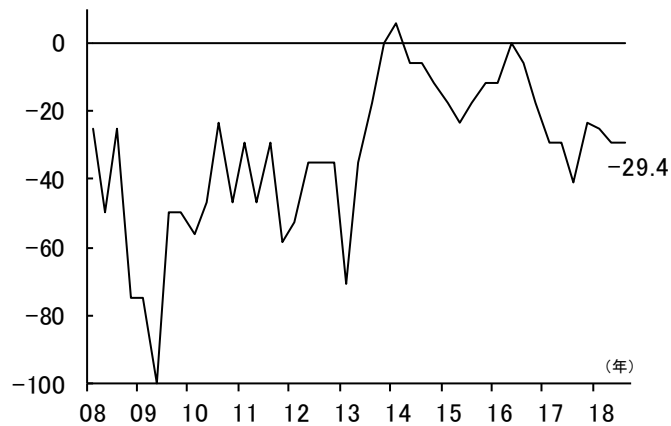
前年同期比売上額判断 D.I.は 0.0 と、前期比横ばいとなり、同収益判断 D.I.は 0.0 と、前期比 20.0 ポイント改善した。

資金繰り判断 D.I.は 18.2 と、前期比 18.2 ポイント改善した。人手過不足判断 D.I.は、 $\Delta 18.2$  (前期は $\Delta 30.0$ ) と、人手不足感は弱まった。

来期の予想業況判断 D.I.は $\Delta 9.1$  と、今期実績比 18.2 ポイントの低下を見込んでいる。

## 小売業

業況判断D.I.(小売業)



### ～小売業の景況感は横ばい～

今期の業況判断 D.I.は $\Delta 29.4$  と、前期比横ばいとなった。

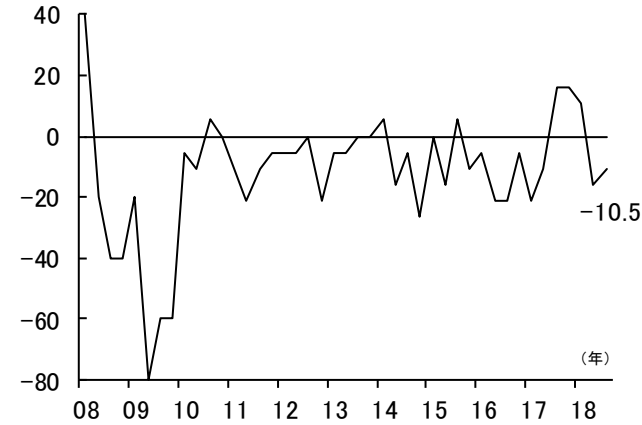
前年同期比売上額判断 D.I.は 0.0 と、前期比 23.5 ポイント改善し、同収益判断 D.I.は 0.0 と、前期比 11.8 ポイント改善した。

資金繰り判断 D.I.は $\Delta 29.4$  と、前期比 5.9 ポイント低下した。人手過不足判断 D.I.は、 $\Delta 17.6$  (前期も $\Delta 17.6$ ) と、人手不足感は横ばいであった。

来期の予想業況判断 D.I.は $\Delta 47.1$  と、今期実績比 17.7 ポイントの低下を見込んでいる。

## サービス業

業況判断D.I.(サービス業)



### ～サービス業の景況感は改善する～

今期の業況判断 D.I.は $\Delta 10.5$  と、前期比 5.3 ポイント改善した。

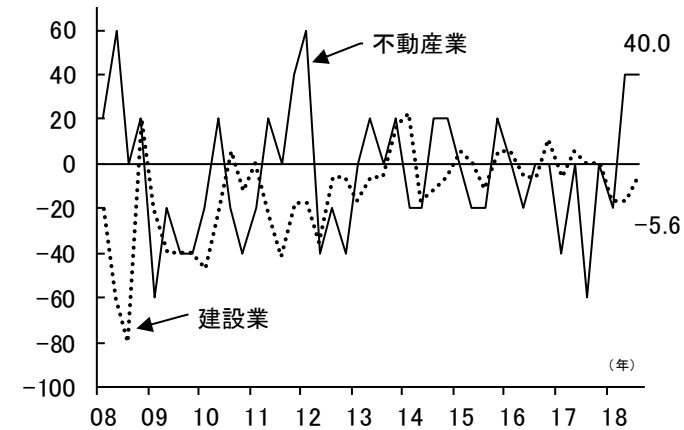
前年同期比売上額判断 D.I.は $\Delta 5.3$  と、前期比 26.3 ポイント改善し、同収益判断 D.I.は 0.0 と、前期比 36.8 ポイント改善した。

資金繰り判断 D.I.は $\Delta 5.3$  と、前期比 5.2 ポイントの改善となった。人手過不足判断 D.I.は、 $\Delta 36.8$  (前期は $\Delta 26.3$ ) と、人手不足感は再び強まった。残業時間判断 D.I.は 5.3 と、前期比 26.4 ポイント上昇した。

来期の予想業況判断 D.I.は 10.5 と、今期実績比 21.0 ポイントの改善を見込んでいる。

## 建設業、不動産業

業況判断D.I.(建設・不動産業)



### ～建設業の景況感は改善～

今期の建設業の業況判断 D.I.は $\Delta 5.6$  と、前期比 11.1 ポイント改善した。前年同期比売上額判断 D.I.および同収益判断 D.I.ともに 5.6 と、それぞれ前期比 11.2 ポイント改善した。受注残判断 D.I.は 0.0 と、前期比 16.7 ポイント改善した。

資金繰り判断 D.I.は $\Delta 16.7$  と、前期比 11.1 ポイント低下した。人手過不足判断 D.I.は、 $\Delta 44.4$  (前期は $\Delta 33.3$ ) と、人手不足感は強まった。

来期の予想業況判断 D.I.は 5.6 と、今期実績比 11.2 ポイントの改善を見込んでいる。

### ～不動産業の景況感は横ばい～

不動産業については、調査対象先の少なさを考慮する必要があるが、今期の業況判断 D.I.は 40.0 と、前期比横ばいとなった。前年同期比売上額判断 D.I.および同収益判断 D.I.ともに 60.0 と、それぞれ前期比 40.0 ポイント改善した。資金繰り判断 D.I.は 40.0 と、前期比横ばいとなった。在庫過不足判断 D.I.は $\Delta 20.0$  と、前期比 20.0 ポイントの低下となった。来期の予想業況判断 D.I.は 0.0 と、今期実績比 40.0 ポイントの低下を見込んでいる。

## 調査員のコメント

**製造業**：元請企業から東南アジア向け受注が途切れず続いており、年内いっぱい忙しい状況である。人員増加は難しく残業で乗り切ろうとされている。

**卸売業**：他社との差別化を図るため自社のオリジナル商品を開発し売上アップに繋げていこうとされている。

**小売業**：息子へ代表者変更をされており、代表者を退いた後も会社に関わるつもりであると意欲を見せておられる。

**サービス業**：少子高齢化により労働力確保が一段と厳しくなっている。企業にとって採用した人員のスキルを社内できかに高めるかが競争優位を保つ一因と考える。

**建設業**：これから公共工事等受注が増えていくので売上は増加見込である。人手不足が続くため人材確保を推進していく方針である。

**不動産業**：分譲地が当社で過剰状態にあり、大規模分譲から 3～5 区画分譲へ仕入方法の変更を検討中である。